

倭文の郷

発行者

NPO法人倭文の郷
津山市戸脇二二六三番地
発行責任者 玉置慎一郎

久米ロτζジ グラランド・オープン 記念式典

四月六日午後、久米ロτζジ グラランド・オープン記念式典が行われ約四〇名の方が参加しました。理事長筒塩は、「久米山を歴史遺産や里山自然を生かし、有効に活用して子どもにも自然体験をさせたい」という思いを語り、久米ロτζジを大いに活用していきたいと、決意を述べました。

来賓の教育委員会生涯学習課峪川(さこがわ)課長は、「津山市版事業仕分けで、市の事業からはずされ頭を抱えていたところ、地域の団体農のある暮らし地域協議会が手を上げ、運営を引き受けることになりほつとしている」とこれまでの経緯を語りました。山田市議会議員は、久米ロτζジ管理人の前任者です。市議会立候補のため現松田氏に引き継ぎました。久米ロτζジの運営が倭文の郷に引き継がれてから、会員や地域の人の積極的な活動によっていい雰囲気になっていると話されました。今年一月から三月に掛けての来



客数は昨年より多いそうです。式典のあとは、参加者で交流するための懇親会が行われました。帰りには、記念品として「お米、紅白のぼたもち、お酒」のセットが渡されました。将来的には、久米ロτζジが、生涯学習の場だけでなく、地域の人が様々な企画を実現し、久米地域が活発になっていくための拠点になって欲しいと期待が膨らみます。

早春の里山塾

散策・体験学習・山菜料理

三月二十二日は、「早春の里山塾」。次第に春の気配があちこちで感じられるようになってきた久米ロτζジ周辺で、昔から行われてきたことを体験し学ぶ一日です。若者から高齢者まで、一三人の人に参加していただきました。午前中は、簡易炭化炉を使って竹炭づくり、森林インストラクターの指導の下で、昼食の食材となる山野草を採取、竹を切って削り、昼食用の食器を作るなど、盛りだくさんの内容です。簡易炭化炉での竹炭づくりは、数時間かかるので、できるまで煙の様子を見て空気の出入りを調整しながら、他の作業を行って待ちます。

早春の野草は、繊維がやわらかく食べやすいので、いろいろなものが食材になります。タンポポの葉、レンゲの葉、ノビル(野生のネギ)などなど。定番の山野草の天ぷらだけでなく、酢の物やおひたし、漬物などいろいろな調理方法で食べるができます。竹を使った食器づくりでは、コップ、汁椀、箸、皿などを作ります。竹を使いやすい大きさに切つて、ふちのささくれを削るといった作業です。午前の盛りだくさんの作業が終わったなら、お楽しみは昼食です。今回はできるだけ石油・ガスを使わないで調理しました。メニューは、山野草料理と豚汁そしてご飯です。

野外でたくさんの人たちと食べるご飯はまた格別のひとときでした。午後からは、きのこの植菌と森林散策・史跡の説明です。以前から整備のために切り倒し、一メートルほどの長さきった雑木に、椎茸、平茸、なめたけの元菌を植えます。その後、約二時間かけて久米ロτζジから稼塚(すくもづか)までのコースを歩きました。森林インストラクターに植物を教わったり、亲手観音像や古墳など史跡の説明を受けたり、盛りだくさんの山歩きでした。季節ごとに装いを変える里山でのいろいろな作業に、充実した一日を過ごしました。



久米ロツジモニターツアー

親子で里山に学ぶ古代体験

三月二十九日は、津山市と倭文の郷の共同企画で、久米ロツジモニターツアーを行いました。

豊かな里山・古代体験と称し、いろいろな手づくり体験に、二九名の親子連れが参加しました。

午前中は、簡易炭焼き窯で、炭焼き体験と、早春の里山散策。

久米ロツジ周辺の榎山で史跡めぐりや早春の植物観察を行いました。

見なれた景色の山の中でも、植物や史跡を教わりながらの散策は、興味絶えないようでした。

木登り遊びも楽しそう。登りやすそうな木を見つけて、幹を伝い競争のように登る姿はワンパクそのもの。

今日の昼食は、古代米の入ったご飯と「そずり鍋」。

しっかりと遊んだ後のご飯は、とてもおいしい、おいしい。しっかりといただきました。

お昼休みには、久米ロツジの広場で、腹ごなしに遊びます。ロープを伝って斜面を登ったり、木に登ったり。午後の体験学習への準備完了。

午後からも盛りだくさん。勾玉作り体験、倭文織り体験、竹の食器作り体験など。

勾玉作りでは、だいたいの形を決めて大雑把に削った後、紙ヤスリで丁寧に仕上げていきます。「こんなもんかなあ」「まだまだ滑らかじゃないなあ、もっと削らなくちゃ」きれいに仕上げるにはなかなか根気のいる作業に、熱中していました。

倭文織り体験(写真上)では、より糸作りと機械機を使って生地を織る体験です。こうぞという木の皮を細く割いて綿と一緒に糸を紡ぎました。これがなかなか難しい。そしてこうぞの糸を色のついた綿糸の間に使つて生地を織ります。「うまく織ることができて楽しかった」という感想ができました。

竹の食器作りは、大きさを決めて切った竹を削り、滑らかな食器を作る体験です。

電動やすりのうえでくると竹を回しながら、満遍なくけずる作業に熱中していました。

昔ながらの遊びや、ものづくりの体験に充実した二日でした。



バンブーミュージックフェスタ 春の竹林に楽しい音が鳴り響く

五月四日は、戸脇の古民家で、バンブーミュージックフェスタを行いました。

竹林に作った舞台で、歌あり、楽器あり、踊りあり、盛りだくさんの一日でした。

一一時開場、一三時から公演が始まりました。

開場してまもなく来場者があり、さっそく野外の釜で焼く米粉入りピザを注文し、好きな場所に席をとっていました。

周辺の竹林ではタケノコが頭を出しています。来場者はタケノコを掘り放題なので、いいのが見つかると思っても掘っていきません。

焼き釜のところを持ってきて、掘り

たてのタケノコを試食していました。ホクホクして甘みがありとてもおいしいんです。

そうこうしているうちに、一三時最初の演奏が始まりました。

まずは、フラダンス。オープニングにちようど良い気持ちで穏やかなる音色に、滑らかな踊りの動きが心地よく、竹林に映えます。

一四時からギター弾き語り。軽快で楽しい歌が、流れていきました。

一五時から、はるばる名古屋からきてくれたグループのインストルメンタル(歌なしの音楽)。ドラマーは出演者最年少の小学三年生。

一七時まで中休みがあり、ピザを注文し焼き上がり待つ人、津山パーガールをほおぼる人、タケノコを掘りに行く人などなど、それぞれの時間をのんびりと過ごします。

次は、フルート&ダンス。フルート演奏の後、アラブやインドの踊りを混ぜたような、リズムカルで艶やかな踊りに、見入る人つられて身体を動かす人などいました。

日も暮れてきて、照明が灯り、いよいよ終盤です。ラスト前はギターの弾き語り。甘く切ない歌声が夕暮れの竹林に広がっていききました。

最後は、オリジナルPOP。ライトで照らされ優雅な雰囲気の中、軽快でリズムカルな音が響きます。

来場者からは、「いろいろな音楽が楽しめ、タケノコのお土産もあるお得な催しでした」と感想があり、のんびり遊べる一日でした。



歴史と文化を語る会

大賀茂競馬・社家の町見学

五月五日、あいにくの小雨の中、早朝五時半ごろに、倭文地区を出発し京都に向かいました。

八時四十分ごろに上賀茂神社に着。すぐに「菖蒲の根合わせ」が始まりました。私たちの到着を待っていたようです。

菖蒲の根合わせ
一〇九三年五月五日、宮中の殿上人・女房達が左右に分かれて菖蒲の根あわせを行いました。左方は上賀茂神社に、右方は石清水八幡宮に祈願して、左方が勝ったので、上賀茂神社に「競馬会」を奉納したと伝えられています。旧暦の五月は今の六月ごろ、菖蒲の根は長く伸びています。現在は実際の根合わせではなく儀式化されています。

菖蒲は邪気を払うとされ、屋根にのせたり、菖蒲湯にしています。上賀茂神社でもこのとき頓宮（神様の仮の宮）の屋根に菖蒲をのせていました。菖蒲は勝負・尚武（武道）に通じることもあり、競馬会の関係者は身に付けています。九時半ごろ「菖蒲の根合わせ」が終わり、堀川賀茂競馬委員会実行委員長、梅辻氏（賀茂七家）、伊藤氏（社家研究家）と合流、岡本賀茂県主同族会理事長に挨拶しました。

社家の町・梅辻家

上賀茂神社の南側、明神川沿いに社家の家々が立ち並んでいます。伊藤氏の案内・解説で廻りました。上賀茂神社の摂社太田神社まで歩き、梅辻家に行き、今回特別に見学させ



てもらいました。

梅辻家住宅は書院が有名で京都御所の黒書院造りを移築しています。梅辻氏、伊藤氏が詳しく解説してくれました。そして、本来は公開してほしくない梅辻家で昼食をとらせていただきました。

賀茂競馬

いよいよ今日の本番、競馬神事の見学です。五月一日の足汰式（あしぞろえしき）から五月五日の競馬にかけて数多くの行事が行われます。午後一時に馬や乗尻（騎手）などが境内に入ってくるが、本番の競馳（きょうち）はなかなか始まりません。一二頭が九折南下し、諸役が所

定の席に着き、警固集が馬場を行進します。これらが終わりやつと第一の番（つがい）倭文庄と金津庄の馬が入ってきます。三遅・巴・小振の儀が行われ、やつと馬が走ります。第一の番は競馳ではなく、先に倭文庄が走ります。私たちの席は頓宮前の一等場所、ものすごい勢いで馬が目の前を駆けていきました。倭文庄の馬の乗尻は一番優秀な人だそうです。倭文庄がゴールした後、所定の場所から馬が首を出したのを合図に次の金津庄の馬が走ります。この勝負は、倭文庄の勝ちで終わります。勝者の乗尻は頓宮に参拝し、肩に白布をかけます。

第二の番からが本当の勝負で、真剣勝負です。今年馬がよく暴れ、きれいなスタートが切れず、競馳も差がついて走り抜ける番が続きました。三番をおえた中間にほこが倒されます。「神様がよく見学したので帰られた」ためです。そして、警固衆が行進します。

この後、四、五、六番が競馳し、競馬神事は終了です。

乗尻が一番若い人は中学一年で、とても上手な乗り手でした。今日の競馳で大差をつけて勝ちました。乗尻は社家の人しか勤められず、現在は乗尻が少ないので二〇の荘園のうち一二頭しか出ないそうです。

一〇九三年から続く競馬神事を、まるごと見学した一日でした。

私たちの地域に縁のあるこの行事を、たくさんの人に見てもらいたいと願っています。

筒塩泰崇

上賀茂神社

賀茂別雷神社（かもわけいかづちじんじや）の通称。賀茂御祖神社（下鴨神社）とともに古代山城の豪族賀茂氏の氏神を祀る神社であり、賀茂神社（賀茂社）と総称される。平安時代以降「山城国一之宮」となった。賀茂神社両社の祭事である賀茂祭（通称 葵祭）で有名である。

祭神は、賀茂氏の祖神である賀茂別雷神（かもわけいかづちのおおかみ）。

平安遷都以前から朝廷からの崇敬を受けてきた。平安京遷都後は王城鎮護の神社としてより一層の崇敬を受け、八〇七年には最高位である正一位の神階を受け、賀茂祭は勅祭とされた。

八一〇年以降約四〇〇年にわたり、伊勢神宮の齋宮にならった齋院が置かれ、皇女が齋王として奉仕した。皇女が齋王となるのは、伊勢神宮と賀茂神社だけであり、朝廷からの崇敬の高さをうかがうことができる。

明治の近代社格制度でも官幣大社の筆頭とされ明治一六年（一八八三年）には勅祭社に定められた。

倭文荘 上賀茂神社荘園

久米町史年表では一〇九〇年、倭文荘・河内荘が加茂大神宮領になるとしている。

一一八四年の鎌倉下文に全国に四二カ所ある賀茂社領を神領として位置づけ、武士の狼藉を禁止し、神領保護の施策がとられてた。

毎年、上賀茂神社に三百貫もの寄進をしていた。現在の額にすると五千万円相当になるといふ。

春の森林学習講座

穂先筍・竹炭 竹林を活用します！

五月二四日、県森林研究所主催、倭文の郷共催で、放置竹林の解消に向けた森林学習講座が、小民家で行われ、市内外から約四〇人が集まり、研究所職員の指導の下、様々な竹の使い方を体験しました。

「穂先筍」採取では、まず筍としてとらずに、数メートル位まで放置した竹を切り倒します。その穂先の方は、包丁が入るほどやわらかく、筍としておいしく食べられます。

昼食の筍ご飯の材料です。倭文の郷の体験学習では定番の竹炭づくりの準備です。簡易炭窯で竹を満遍なく組んで仕込みました。

また、美容効果バツグンの竹水を採取します。ちょうど良いくらいに育った竹を探し、地上五〇cmくらいのところドリルで天を空け、パイプを突き刺して受けにペットボトルを置いて準備OK。

昼食は、筍の炊き込みご飯、筍や野菜の七輪焼き、山菜の天ぷら、豚汁など。すべてマキや炭を使って作りました。

野外で食べるご飯は格別。思い思いの話で盛り上がりです。

午後からは、竹ぼうきを作りました。昔は家庭で作っていたので、今ではほとんど作っていないと思います。

そうこうしているうちに溜まった竹水で簡単な化粧品を作り、いい具合に出来上がった竹炭と一緒に土産にしました。



催し物等

■ 早朝の野鳥と自然観察会

この時期里山では、ゲンジボタル、ジャコウアゲハ、ホトトギスなどが賑やかに活動しています。多くの生き物に出会えるよう、早朝観察会を行います。

平成二六年六月一四日(土)

五時半～七時半(雨天中止)

集合場所 久米ロッジ

(〇八六八・五七二・二四三)

募集人数 二〇名程度

参加費 無料

その他 当日は山歩きが可能な服装や防虫対策をしてお越しください。飲み物、双眼鏡は各自でお持ちください。

お申込み・お問合せ先 NPO法人「倭文の郷」

担当：香山(こうやま)

(〇九〇・一五二・〇一三二九)

■ 倭文歴史と文化を語る会 旅

黒田官兵衛ゆかりの姫路を訪ねて

予定コース 姫路城・大河ドラマ館

灘菊酒造・書写山園教寺・ヤマサかま

ぼこ夢鮮館

灘菊酒造・西蔵で昼食

日時 平成二六年七月五日(土)

七時半八社出発、院庄まで各所で

バス乗車 一八時三五分八社着

会費 九〇〇円

お申し込み・お問い合わせ

倭文歴史と文化を語る会

担当 筒塩(つつしお)

(〇九〇・二七〇・二一九一九六)

■ ふくしまっ子保養

プロジェクト

関東以東から親子五〇余名が、約二週間保養に来ます。

食材などの物資、お手伝いなどの支援を募集します。よろしくお願ひします。

平成二六年七月二二日～八月四日

場所 久米ロッジ

主催 さよなら原発パパママ美作ネットワーク

お問い合わせ 久米ロッジ

(〇八六八・五七二・二四三)

久米ロッジ 自炊型宿泊施設 広告



料金 1泊2500円
久米ロッジ
津山市神代1507-1
0868-57-2143

当施設は厨房設備を兼ね備えており、ご宿泊の方に自由にお使いいただける「自炊型宿泊施設」です。

同窓会や、各家の法事などで宿泊していただき好評です。企業研修も宿泊や会議室利用で使っていたら、自然が豊富な環境の中での研修に高い評価を得ています。

どんどんご利用下さい。

広告募集中です。詳細はお問い合わせ下さい。〇八六八・五七二・二四三